

### iNKT がん治療の特徴

#### その1

「iNKT がん治療」は、がん細胞そのものをターゲットにした治療法ではなく、患者体内に本来存在しているにもかかわらず がんのために弱っている免疫細胞群をアジュバント作用により活性化する治療法であるため、「どんながん」にも効果が期待できる治療法です。iNKT 細胞の抗腫瘍効果は、他の免疫細胞を活性化するアジュバント作用によって強力に発揮され、活性化された免疫細胞の一部（セントラルメモリーやエフェクターメモリーなどの記憶細胞）は体内に残存し、長期免疫記憶を形成する。

#### その2

がんには、常に「がん抗原を発現しているがん細胞」と「がん抗原を発現していないがん細胞」の2種類が混在していて、この両方の「がん細胞」を「同時に」排除できないと再発・転移が起こります。従来のがん免疫治療はいずれか一種類のがん細胞を標的にしていましたが、「iNKT がん治療」は2種類のがん細胞を同時に排除する治療法であり、がんの進行・再発・転移を抑制する効果が期待できます。一方、がん縮小効果は少ないため、がんの大きさはそのままです。

#### その3

iNKT 細胞の抗原受容体はすべての人に共通であり、iNKT 細胞を活性化する iNKT リガンドは種属に1つしか無い CD1d 分子に結合することで iNKT 細胞を活性化するため、患者 HLA タイプに無関係に「誰にでも」効果が期待できます。

## iNKT 癌細胞的特徵

### 其一

「iNKT 癌細胞治療」並不是把癌細胞當作治療目標來醫治的治療法。而是即使患者體內存有癌細胞，這種療法能使患者體內因癌細胞而減弱的免疫系統，透過輔助療法來使其活化。因此，此治療法有極高的可能性對「任何癌症」都有治療的效果。iNKT 細胞的抗癌效果，透過讓其他的免疫細胞活性化的輔助作用來增強發揮、讓活化的免疫細胞的一部分(記憶 T 細胞、作用性 T 細胞等的記憶細胞)在體內殘存，進而形成長期的免疫(狀態)並使其記憶。

### 其二

癌(細胞)通常混有「發現癌抗原的癌細胞」和「沒發現癌抗原的癌細胞」，這兩種類型。這兩種的「癌細胞」無法「同時」排除的話，就會發生癌細胞再次併發或是移轉的狀況。以前的癌細胞治療都是以其中一種的癌細胞為治療目標，但「iNKT 癌細胞治療」是同時將兩種類型的癌細胞做排除的治療法。且有壓制癌細胞併發與轉移的效果。另一方面，因為不太有惡性腫瘤縮小的效果，腫瘤的大小將會保持原樣。

### 其三

iNKT 細胞的抗原受體在所有的人體裡都有。因把 iNKT 細胞活性化的 iNKT 配體(ligand)，跟只有一種種類的 CD1d 分子結合的關係，因而活性化 iNKT 細胞。也因此跟患者的\*HLA 類型沒有關係，「任誰」都可以達到此效果。

註釋：

HLA：人類白血球抗原(英語：human leukocyte antigen)